

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

科目名		ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
作業療法演習Ⅱ-2			必修	1	3	後期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
小沢 健一 他		C305	k-ozawa		水曜日 10:30～12:00	
授業の目的・概要		作業療法演習Ⅱ-2 では、MTDLP を用いて対象者を理解し、作業療法を実践するために、評価、統合と解釈、焦点化までの習熟を目的とする。また、臨床実習に向けて、模擬患者に対しての今まで学習した専門技術を実践できることを目的とする。 授業は原則、面接授業で実施する。				
授業形式・方法		☒ 対面授業 ☐ 遠隔授業(双方向型) ☐ 遠隔授業(自主学習)	☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習 ☒ 実技	☐ PBL ☐ 反転授業 ☒ グループワーク ☐ プレゼンテーション ☐ その他（		

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

総合評価割合（％）		達成度評価					
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	40	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	40	10	0	0	0	50
	思考・推論・創造する力	10	10	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	0	10
	コミュニケーション力	10	0	0	0	0	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①		実技試験は、ある疾患を想定した関節可動域訓練・筋力増強訓練・移乗動作訓練・更衣動作訓練などの治療介入を行う。 作業療法の基本的な技量および治療の基本的な技量についての習熟度を問う。				
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	模擬事例について、作業療法評価の過程をMTDLPでレポートにまとめる。レポートをまとめる過程やレポートの内容をルーブリックで評価し、知的スキルの習熟度等について問う。	レポート提出後に各担当者により実施する。			
	②						
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	志茂 聡、榎田 哲弥、浅野 克俊、岡 猛、小川 麻里子、海保 享代、渡辺 俊太郎						
教員の実務経験	本科目の担当教員は10年以上の臨床業務経験がある。						
実践的授業の内容	配布資料と併せて臨床における治療で得た知見に基づき作業療法に必要な基本的実技・知識を教授する。						
そ の 他	授業形態： この科目は登校による面接授業で実施する。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は面接授業の参加を認めない。 演習グループは、 前期の演習の習熟度によって、授業効果が最適化するようにグループ編成を行う。 履修に関して： この科目の単位修得が臨床実習Ⅲ（評価実習）の履修要件である。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって、シラバス変更の可能性がある。						